

水産研究・教育機構の重点研究課題2 水産業の健全な発展と安全な水産物の安定供給のための研究開発

●沿岸域における漁場保全と水産資源の造成のための研究開発

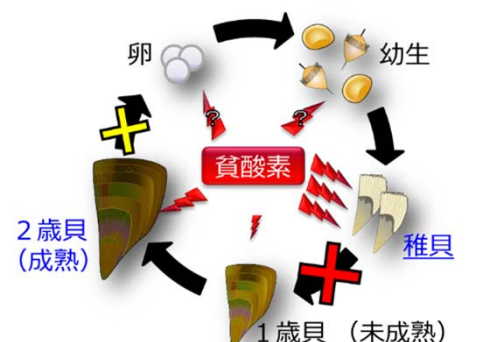
●内水面漁業の振興とさけます資源の維持・管理のための研究開発

●養殖業の発展のための研究開発

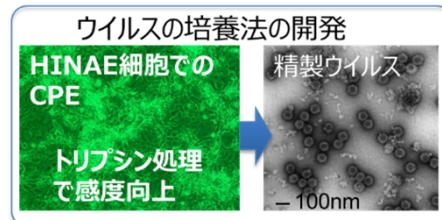
●漁船漁業の安全性確保と持続的な発展のための研究開発

●漁業インフラ整備のための研究開発

●水産物の安全・安心と輸出促進を含めた新たな利用のための研究開発



タイラギ发育ステージ別の貧酸素の影響
漁場環境や水産資源の維持回復



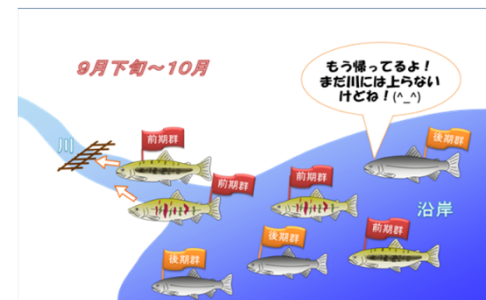
ウイルスの培養法の開発
アクアレオウイルス感染症の
診断法の開発と疫学調査
魚病研究

$$\left(a - \ln \frac{U_{\max} - T_{zp}}{D} \right) \frac{U_a^2}{\mu s g D} = \phi_{er}$$

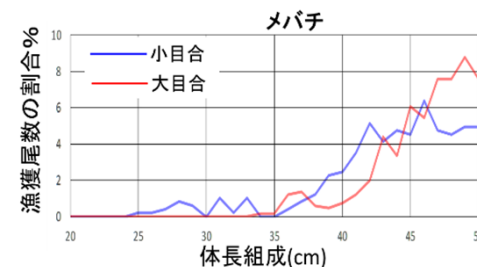
ここに、 $a = 7.22$ 、 $\phi_{er} = 2.65$

現地試験によって新提案式の
妥当性を確認

藻場造成等に用いる石材の
新しい安定質量算定式の開発
漁業インフラ整備



さけます類の維持・管理手法の開発
さけます資源の維持



まき網目合いによる小型魚の
混獲削減効果の検証
漁船漁業の持続的発展



下痢性貝毒成分の認証標準品頒布体制構築
水産物の安全・安心

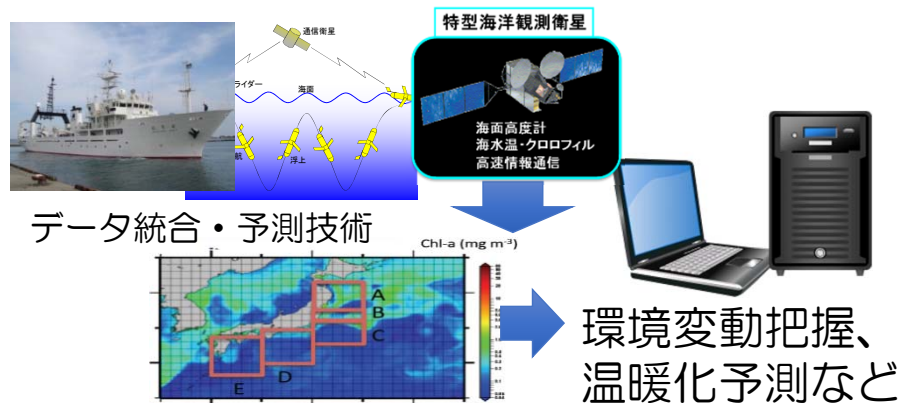
水産業の健全な発展と安全な水産物の安定供給

海洋・生態系モニタリングと次世代水産業のための基盤研究

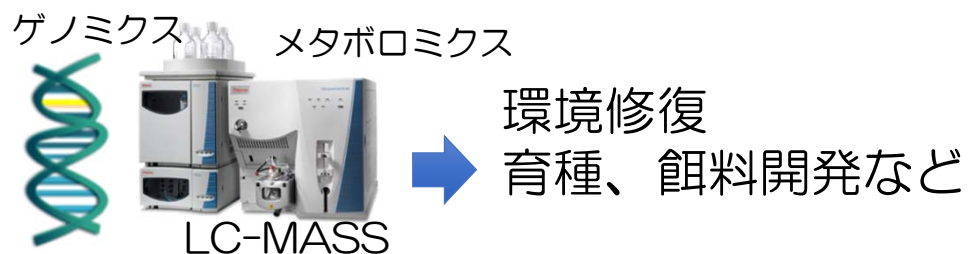
●海洋・生態系モニタリングとそれらの高度化及び水産生物の収集保存管理のための研究開発

●次世代水産業及び他分野技術の水産業への応用のための研究開発

モニタリングの高度化と観測データの総合的活用



オーミクス技術の活用



ICT&ロボット技術等の活用



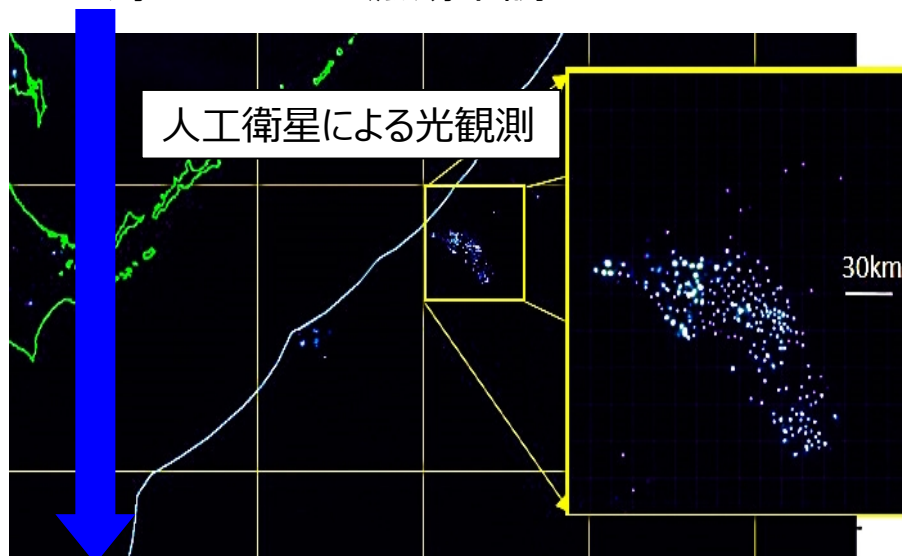
海洋・生態系モニタリングの高度化と
次世代水産業のための基盤技術創出

水産研究・教育機構による国の重要施策に対する科学的知見の提供

- ABCの算定結果や国際資源に関する解析結果を水産庁に提供
- IUU漁船対策として人工衛星等から収集
- 漁業者への資源評価結果周知、地域漁業管理委員会での資源管理に貢献した情報を水産庁に提供
- 気候変動に対応した研究を推進、成果を発表するとともに農水省に提供
- タンカー漏洩油の環境や海洋生物への影響の緊急調査等に迅速に対応

IUU漁船等の操業実態の把握

- ・人工衛星(光観測)とAIS情報を用いたモニタリング手法を開発
- ・公海でサンマの漁期中調査



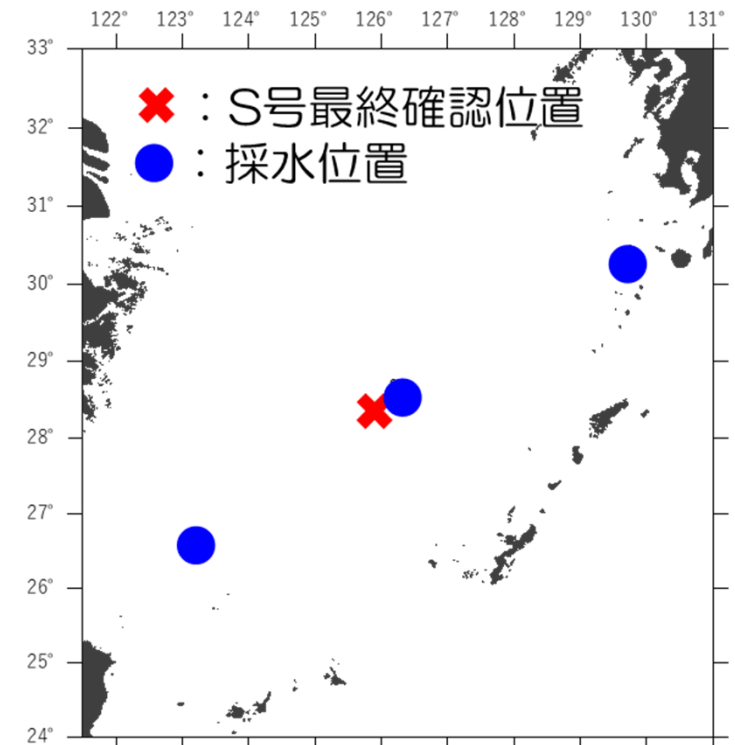
違法操業等の実態把握

タンカー事故漏洩油の緊急影響調査

- 現場周辺海域の
- ・海水等の環境への影響調査
 - ・海洋生物への影響調査



信頼性の高い科学的知見の提供



水産研究・教育機構による地域水産業研究のハブ機能

- 各地の公立試験研究機関、大学、業界等との連携を図る仕組みを強化
- 全国水産業関係研究開発推進会議各ブロックにおける水産業関係研究開発推進会議、分野別推進会議等で、意見交換、ニーズの収集
- クロマグロ養殖の推進

「全国クロマグロ養殖連絡協議会」の活動

輸出展開事業として中国青島のシーフードショーで協議会活動をPR

- 地域に密着した水産業振興

人材不足、高齢化に対応した高生産性・高付加価値化のための技術開発

センシング技術・ICTによる漁獲物選別・加工の省力化・見える化技術の開発を推進

離島地域の水産振興を目的とした技術開発

水素燃料電池漁船の試設計、磯焼け対策、二枚貝養殖、クエの陸上養殖等を推進



- 東日本大震災被災地の復興・支援

- ・岩手県でのスルメイカの高鮮度化、宮城県でのカキのブランド化等の技術開発を推進
- ・福島県とは本格操業再開に向けた操業支援及び先端的な加工・流通技術普及のための協議を実施し、課題提案